

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 51
2020.7

TOPICS

1

地球憲章国際本部と包括連携協定を締結 -協定に基づく連携についてWeb会議を挙行-



本学と中米コスタリカの首都サンホセ市にある国連平和大学(UPEACE)内に設置されている地球憲章国際本部(ECI)は6月18日、MoU(包括連携協定)を締結し、7月10日、協定に基づく連携についてWeb会議を開催しました。

榎野博史学長は、「本学は、全学でSDGsを推進する取組を行っており、またサンホセ市と岡山市は姉妹都市50周年を迎えた歴史的な基盤もある。今回の協定締結を通してESDとSDGsならびに地球憲章の統合的な取組を推進しながら、両市域を交えた包括的な人材育成および社会貢献事業等を推進していきたい」と連携への意欲を述べました。また、ミアン・ビレラ地球憲章国際本部代表理事は「国連平和大学・地球憲章国際本部と岡山大学の双方のユネスコチェアが架け橋となって、地球憲章の下、SDGsやESDに関する協働プロジェクトなどを行いたい」と述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9516.html



TOPICS

2

久保園教授が岡山県文化賞を受賞

7月13日、ルネスホールで、第72回岡山県文化賞・第21回岡山芸術文化賞の表彰式が行われ、久保園芳博異分野基礎科学研究所・教授が文化賞を受賞しました。式では、伊原木隆太岡山県知事から、久保園教授に賞状と副賞が授与されました。

久保園教授は、長年にわたり固体物性化学の研究に携わり、特にフラーレンなどの新規な炭素物質の超伝導研究や、有機トランジスタ研究において優れた業績を残しています。「アルカリ金属をドーピングしたピセンの超伝導特性」の研究では、科学誌Natureに論文が掲載されました。最近では、炭素系や無機系の二次元層状物質の超伝導やトランジスタ研究に積極的に取り組んでおり、高圧下での超伝導特性研究も積極的に進めています。受賞にあたり、久保園教授は「今回の受賞は、岡山大学、同僚、世界中の共同研究者のおかげです。今後は、研究成果を地域産業の発展のために役立てていきたい。また、岡山を教育・研究の世界的拠点となるよう尽力していきたい」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9515.html



Pick up!

自分ごとSDGsを実践！学生×生協のコラボでTFT弁当が誕生

7月13日からピーチユニオン2階テイクアウトコーナーで、開発途上国の子どもの給食を支援するTFT(TABLE FOR TWO)弁当の販売が始まりました。昨年4月から提供を開始したTFTメニューに続く第二弾として、経済学部3年の中澤拓也さんが中心となり企画。岡山大学生活協同組合の協力により実現しました。

TFT弁当は、TFT豆腐ハンバーグ弁当、TFTホキ味噌漬け焼き弁当、TFT鶏肉オニオンソース弁当(各463円(うち20円が募金分))の3種類が週替わりで登場。10時～の販売で、1日20食程度を提供し、なくなり次第終了となります。弁当はいずれも、TFTのガイドラインにある「カロリー730kcal程度の野菜が多いヘルシーなもの」という条件を満たすように作られています。日本でのヘルシーな食事1食が、購入者の健康増進とアフリカ・アジアで子どもたちの温かい給食1食につながる仕組みです。

TFT…日本発の社会貢献運動。先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというもの。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9522.html



TOPICS

3

医歯薬3学部とCTEが初のバーチャル合同研修会を開催 ～オンライン授業に関するFDプログラムを実施～

本学の医、歯、薬の3学部は7月10日、医療教育センター、高等教育開発推進センターCTE部門と共に、初のバーチャル合同研修会「2020年度夏の合同FD(Faculty Development)プログラム～オンライン授業がもっと楽しくなる3つのコツと落とし穴～」を開催しました。昨年度は医歯2学部で開催した合同FDを、今年度は初の試みとして医歯薬3学部の合同開催にするとともに、参加者・スタッフの57人全員が、計3時間にわたる授業設計ワークショップをオンラインで体験。コロナ禍においても、オンライン教育を活用しながら「学修者主体」の授業を設計・実施する方法について、ノウハウを3学部全体で共有しました。

また、ワークショップは、授業内容の録画、画面共有やアンケートづくりなどを体験するハンズオンのコーナーとして実施。「新鮮で楽しかった」、「授業で活かしたい」といった感想のほか、「トラブルが起きたときにどう解決するか知りたい」という声もあがりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9514.html



TOPICS

4

コロナ禍の学生と地域飲食店への支援プロジェクトを実施した 学生3人に学長表彰を行いました



7月3日、新型コロナウイルスの影響を受けた本学の学生と、地域の飲食店双方を支援するプロジェクトを企画・実施した榎遥希さん(法学部4年)、宮本泰輔さん(法学部4年)、林田圭さん(大学院教育学研究科2年)に榎野博史学長から表彰状を授与しました。同プロジェクトは榎さんが発案し、宮本さん、林田さんの協力を得て、「コロナがなんじゃ！WIN & WIN学生プロジェクト 岡大生の食支援×地域飲食店の活性化」という企画名で、6月1日～12日の平日に実施。「岡山大学学都基金」が資金面をサポートし、津島キャンパス周辺の飲食店から1食500円程度で購入した弁当を1日あたり300～500食用意して、9店舗の協力を得て10日間で3900食を本学学生に配布しました。榎さんは「学生だけではなく保護者の方からもお礼のメッセージをいただいた。多くの方に喜んでいただけてプロジェクトは成功だったと思う」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9505.html

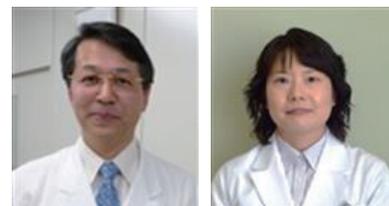
PRESS
RELEASE

アルツハイマー病患者さんの不安定な精神状態への より良い処方薬についての研究(岡山うつアパシープロジェクト)

アルツハイマー病患者にはうつ症状やアパシーといった意欲低下症状が認められます。アパシー(apathy)とは、ギリシャ語のa=失う、pathos=感情・苦悩を組み合わせた言葉であり、喜怒哀楽の感情がなくなった状態を指します。アパシーは認知症初期から認められる人が多いとされる、うつ状態と似た精神症状です。うつ症状は、やらなければならないといった気持ちはあるのにやる気が出ないことに患者自身が苦しみ、アパシーは患者自身の苦しみはないのですが、そのぼうっとしている患者の様子を見て家族など介護者がどうしたのだろうと心配になる、という特徴があります。

大学院医歯薬学総合研究科(医)の阿部康二教授と武本麻美助教の研究グループは同大学病院に通うアルツハイマー病患者を対象としてうつ・アパシーといった精神症状の改善に効果がある抗うつ薬は何であるか研究しました。その結果、同じ抗うつ剤であっても、エスシタロプラム(レクサプロ®)はうつ症状改善に、セルトラリン(ジェゾロフト®)はアパシーの改善により強い効果があるようだという結果を得ました。世界で初めての報告であり、2020年6月15日、米国の「Journal of Alzheimer's disease (JAD)」にオンライン上で掲載され、7月刊行の学会誌に掲載されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id754.html



阿部教授

武本助教

